

しゅんぎく

科名：きく科
 原産地：地中海沿岸
 生育適温：15～20℃
 別名：きくな

発芽適温：15～20℃

◎ 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋まき栽培									種まき ○			収穫 □□□

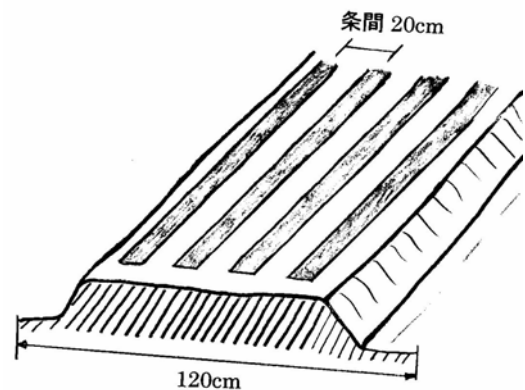
◎ 栽培に必要なもの(10㎡あたり)

- しゅんぎく種……………40ml
- 肥料:堆肥……………30kg
- 苦土石灰……………1.0kg
- 元肥用化成肥料(10-8-9)1.0kg
- 追肥用化成肥料(10-2-9)0.5kg



畑づくり

- ・ 種まきの2週間前に、堆肥や苦土石灰を施用して、土づくりを行っておきます。
- ・ 植付け前に元肥を施し、幅1.2mのうねをたてます。
- ・ 水はけの悪い畑では、うね幅を小さくし、通路部分を増やします。



たねまき

うね幅 120cm 4条まき

- ・ 細いくわなどで、まき溝を浅くつけ4条まきにします。
- ・ まき溝の土は細かく砕き、1～2cm間隔になるように、むらなく種をまきつけます。
- ・ 種まき後、くわで表面を軽く鎮圧して種を落ち着かせてから、種がかくれる程度に土をかぶせ、十分にかん水します。



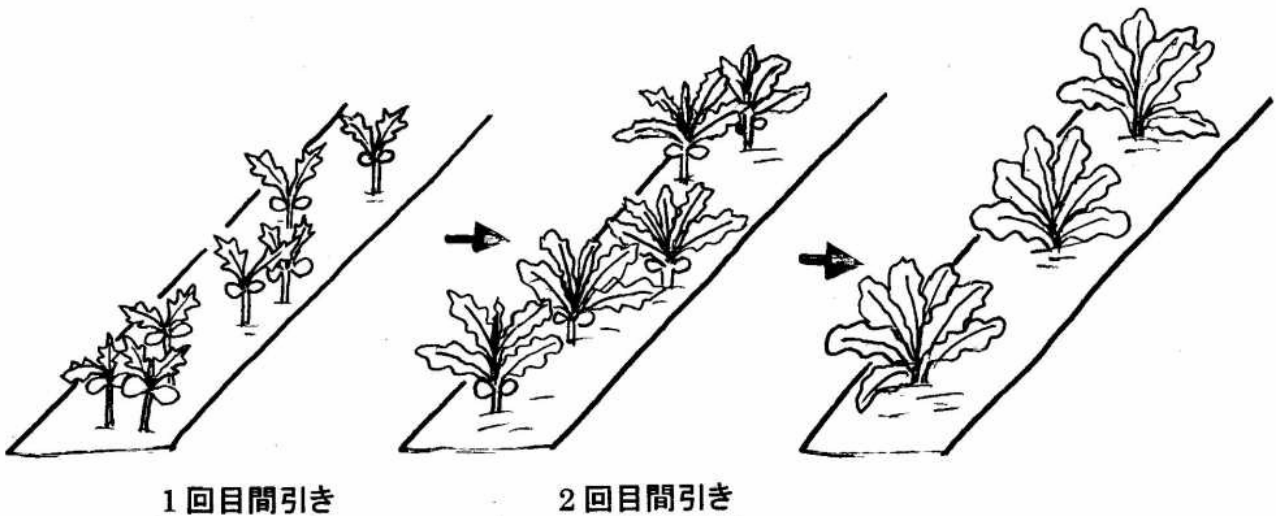
広島市特産「広島型しゅんぎく」

昭和30年頃から安佐南区祇園・古市地区が主要産地となり、昭和50年代の初めに病気に強く、荷姿の美しいものが選抜されて、現在にいたっています。

広島市のしゅんぎくは大葉種ですが、浅い切れ込みのある独特の形をしています。香りは強くなく、ほのかな甘味があり、しゅんぎくの苦手な人でも食べやすいのが特長です。

間引き

- ・ 2回くらいに分けて間引きます。1回目は本葉1~2枚のころ、混みすぎたところを間引いて、株間をそろえます。2回目は本葉5~6枚のころに行い、最終的に株間を5~6cmにそろえます。



- ・ 生育の不良な株と生育のよすぎる株を間引き、平均的に育っている株を残します。
- ・ 台風や虫害のことを考えて、あまり早くから1本立ちにしないようにします。

かん水と追肥

- ・ 生育初期には十分にかん水します。特に、発芽がそろうまで時間がかかるので、乾燥しないように適当にかん水します。
- ・ 追肥は1ヶ月に1回の割合で、化成肥料200~300gを条間に施します。

収穫

- ・ 長さ25cmくらいになったものから、順次収穫します。株全体を抜き取る方法と柔らかい生長点部分を摘み取る方法があります。
- ・ 摘み取り法の場合、下葉を4~5枚残して収穫します。下葉の節から分けつした茎が伸びてくるので、順次、同様に下葉を残し収穫します。



しゅんぎくのカロチン含有量は、ほうれんそうやこまつなより高く、ビタミンB₂、C、カルシウム、カリウム、鉄分も多く含まれています。独特の香り成分は咳止めにも効果があるといわれています。

原産地のヨーロッパでは、もっぱら観賞用に栽培されていますが、東南アジアの諸国では食用にされています。

香りが高く、色の美しいしゅんぎくは冬季の鍋物の具のほか、和え物やおひたし、また、刺身のつまや汁の実など生食もできる健康的な野菜です。